

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873400224
法人名	有限会社 介護支援サ - ビス しるもと
事業所名	グル - プホ - ム・シオンの家
所在地	上浮穴郡久万高原町久万 1 3 9 4 - 3
自己評価作成日	平成22年5月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月1日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホ - ムは四季折々の自然豊かな山々に囲まれた久万高原町の高台に位置する民家改修型のグル - プホームです。「自由権の尊重」を基本理念に置き、入居者の意志、行動に対して、危険性がない限り干渉せず、自立と本人の望む生活を支援することに力を入れて取り組んでいます。家庭菜園のある広い庭での趣味の園芸、草引き、日だまりの縁側で友人とおしゃべり、笛ヶ滝公園の散歩等、認知症になっても住み慣れた地域の中で、支え合う職員と共に自由に楽しく暮らしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ご本人の希望に合わせて、ご自宅に戻ったり、親しい人に見えるよう支援されている。敬老会も「自宅地区の方が懐かしい人に見える」ことから、案内が来る方は、参加できるように支援されている。利用者が入居前に世話していた畑で草引きができるよう支援され、ご家族から喜びの言葉をいただいた。  
事業所では「利用者のこれまでの生活や思いを知った上で、今の生活を支えていきたい」と考えられ、代表者の提案で、自分の思いを伝えることのできない方の気持ちを知るため「職員が利用者の立場になって、ケアを受けてみる体験」をされている。その結果、職員は「分かっていたつもりで分かっていなかった」部分があり、今までより、さらに細かい気配りができるようになったようである。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	項 目		取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. <b>ほぼ全ての家族と</b> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. <b>ほぼ全ての職員が</b> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. <b>ほぼ全ての家族等が</b> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・シオンの家

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

村越 タエ子

評価完了日

平成22年 5月 7日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 代表者と管理者が、様々な場面で理念の大切さと実践に向けた取り組みについて話し、安心した生活と本人の望む自由な暮らしを支えるためのホームの理念を、職員全員で作り上げ共有しているが、新しい職員も増えたので、再度実践に向け努力している。	
			(外部評価) 事業所は「利用者を中心にしたケア」を目指し「地域の中で当たり前のように生活していくことを支援する」という気持ちを込めて「やさしい目・やさしい手・主役はお年寄り」と理念を作成しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的とは云えないが、運営者が町内会の会合に出席したり、職員がクリーンデイや保育園の行事などに利用者と一緒にできるだけ参加し地元の方々との交流に努めている。又近くにあるスーパーへの日々の買い物や散歩等に出かけることで気軽に声をかけてもらったり、地域の方と顔なじみになってきている	
			(外部評価) 地域の夏祭りには、職員が「連」を組んで、仮装等して上位入賞できるよう頑張っておられる。近所の方が、利用者お一人で外に出ている時に知らせてくださったり、救急車を呼んだ時には「何か手伝うことある？」と声をかけてくださる。近くの保育園児達が、散歩の途中に寄って歌を披露してくれることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 現在まで職場体験実習生の受入や認知症サ-ポ-タ-講座の開催等を行ってきた。が、もっと幅広く町内の方々にとって頂きたいと思い、久万高原町主催の夏祭り「久万踊り」に参加し4位入賞して多くの住民の方々にアピ-ルした	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の日頃の様子や、ホームの取り組み等の報告を 行ったり又運営推進会議委員にも敬老会や救命講習へ 参加して頂いている。会議で出た情報や意見について は全職員に周知しサービス向上に努めている</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議のメンバーの方に、事業所で行う敬老会 や救急法の講習に参加していただいたり、災害時の協 力をお願いしている。又、「普段は、きっかけがない と入りにくい」という意見が出され、事業所2階のス ペースを地域の会合等で使っていただけるよう提案さ れている。会議時に食事会を行い、メンバーから「お いしいね」と感想をいただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>町が毎月1回開催する地域ケア会議に出席し、勉強会 や情報の共有を図っている。町の担当者とは協働関係 にあり、いつでも相談、助言が受けられる関係が構築 されている。運営推進会議には必ず出席していただ けている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>町の福祉課と包括支援センターから運営推進会議に出 席していただき、なんでも相談できるような関係を 作っておられる。事業所の庭の草刈りが大変だった が、町の草刈りボランティアの方が無償で来てくれ るようになり、事業所は助かっているようだ。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束は人権侵害に当たることを全職員が認識して いる。日々の業務チェック、見守り、巡回等及び職員 への継続的な意識付け（身体だけでなく言葉掛けも） を行い、職員全員で拘束のないケアに取り組んでい る。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>法人代表者や管理者は、職員に「何が拘束になるか、 身体のみならず言葉で拘束してないか」等、研修や 日々のケアの中で職員が考えられるように、問いかけ ておられる。入居前、入眠剤を使用されていた利用者 も、生活のリズムや体調を整えていくことで、薬に頼 らず眠ることができるよう支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>(自己評価) 代表者・管理者が虐待に関してははっきりした考え、方針を持ち、カンファレンス等で常に話し合っている。身体的・精神的、全ての虐待を生じさせないように、職員のストレス解消を含め、継続的に取り組んでいる。</p>	
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 現在まで当ホ - ムでは対象の利用者がいない為、勉強をしても職員に十分な理解が得られていない。法人内（他事業所）では権利擁護制度の利用者がいるので対応はできるが、今後研修に取り入れ職員が理解を深め、対象利用者の支援につなげられるよう取り組んでいく。</p>	
9		<p>契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>(自己評価) 入居時には当ホ - ムのケアに関する考え方や取り組み等をはじめ、GH協会から出ている「利用者の権利・倫理綱領」等を契約書と一緒にお渡しして不安のないよう十分に説明して理解、納得をいただいている。</p>	
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>(自己評価) 介護相談員の訪問が月2回あり、利用者が外部の人に思いを話せる機会になっている。又、職員にも個別に話ができるよう個々の部屋での会話を持つようにしている。出された希望や要望は日々のケアに生かしている。</p> <p>(外部評価) ご家族には「できるだけ利用者に会う機会を持っていただきたい」と、利用料は事業所に持参してもらっている。事業所では、外部評価機関が発行する家族アンケート集計表を活用して、その中のいろいろな意見を自分たちに置き換え点検したり、考えてみる機会とされている。</p>	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者・管理者は常に職員の要望や意見を聞くように心がけている。職員雇用や運営の方針なども相談しながら、職員の意見・要望・提案がホ・ム運営に反映されるよう取り組んでいる。在職率も高い。	
			(外部評価) 法人代表者・管理者も勤務のシフトに入り、職員とともにケアの現場で利用者を支援されている。職員は、ケアの提案や気付き・意見を法人代表者や管理者に相談したり、話し合いながら取り組みをすすめておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営者が勤務に入っているため現場の状況を把握している。資格取得を奨励し、取得後は資格手当等を含め資格を活かせ、向上心を持って働けるよう労働環境づくりに努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) GH連絡協議会の研修を常勤、非常勤問わずなるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月のカンファレンスで発表してもらい、全職員が共有している。職場内では管理者や主任ワ-カ-がその都度指導している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県GH連絡協議会に加入しており、毎年1回行っている相互訪問研修に参加している。又、毎月行われる協議会主催の研修会に1名ずつ出席し、ネットワーク作りや質の向上に取り組んでいる。運営者の知人のホームの見学に行ったりしているが、町内の他ホ-ムとの交流が今後の取り組み課題。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居迄に本人と会って、できるだけ生活状況、身体レベル等の把握に努め、本人の思いをよく聴き、ホ-ムの情報を伝え信頼してもらえるよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や本人の状況等、じっくり話を聴き当ホ - ムではどのような対応ができるのか、双方の理解と納得が得られるまで家族の心情を理解しつつ話し合いをするよう努めている。出来る限り柔軟な対応をさせて頂いている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当ホ - ムは基本的に申し込み順に入居してもらっており、共同生活が著しく困難等、特別のことがない限り柔軟な対応を取らせてもらっているが状況によってはケアマネ - ジャ - 等と連携を取り、他のサービスにつなげることもある。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に時を過ごす家族のような関係作りに努めている。人生の先輩としてある時は教えられ、また共に喜び、共に悲しみ、支え合っていく生活を作り上げていく努力をしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 様々な家族の在り方があるが、それぞれに置かれた家族の思いに寄り添い共感しながら、喜怒哀楽を共にし、本人を支えていく関係を築くよう努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に住んでいた家を訪問したり、親戚、知人を訪ねたり、来てもらったりと、個々の能力に合わせて馴染みの人や場所との関係がとぎれないように支援している。また入居前から利用している馴染みの美容院や理容院への希望があり、送迎支援している。 (外部評価) ご本人の希望に合わせて、ご自宅に戻ったり、親しい人に会えるよう支援されている。敬老会も「自宅地区の方が懐かしい人に会える」ことから、案内が来る方は、参加できるように支援されている。利用者が入居前に世話していた畑で草引きができるよう支援され、ご家族から喜びの言葉をいただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲のよい利用者同士で座ってもらったり、孤立しがちな方は職員がうまく交われる場所を設定したりしながら利用者同士の関係の支援をしている。又、軽度の方が重度の方を思いやり、手助けし、共に支え合って暮らす支援に努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームでの対応が困難になり、長期入院となってしまった利用者や家族との関係を断ち切らないようお見舞いに行ったり相談を受けたりしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居者本人の思いや感じ方をくみ取れるように、全職員が再度一日利用者体験を行う予定がある。可能な限り本人の意向を第一にしているが、意思疎通の困難な方の場合、家族の希望や本人の表情、様子等から把握し希望に添っていけるよう努力している。	
			(外部評価) 事業所では「利用者のこれまでの生活や思いを知った上で、今の生活を支えていきたい」と考えられ、代表者の提案で、自分の思いを伝えることのできない方の気持ちを知るため「職員が利用者の立場になって、ケアを受けてみる体験」をされている。その結果、職員は「分かっていたつもりで分かっていたいかなかった」部分があり、今までより、さらに細かい気配りができるようになったようである。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 普段の関わりの中から本人自身への聞き取りや、家族・友人の来訪時などに担当職員が少しずつ把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ケース記録に一人一人の状態(食事、水分、排泄等)や会話等、生活状態が分かるように時間を追って記録している。いつでも全ての職員が確認、記入ができるよう共有し実践している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の希望を第1とし、家族の希望や、一人一人の能力別に思いや願いを普段の生活の中からくみ取り、本人、家族、職員たちと話し合いプランに生かすように心がけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の来訪時には、ご本人が普段職員に話して下さること等を伝えるようにされている。利用者やご家族の意見や職員個々から集めた情報をもとに話し合い、担当者が介護計画を立てておられ「利用者の思い・どうしたいか・具体的に何をするか」という項目に沿って、独自の様式を用いて作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケース記録に一人一人の状態（食事、水分、排泄等）や会話等、生活状態が分かるように時間を追って記録している。いつでも全ての職員が確認、記入ができるよう共有し実践している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共用型デイサービスを含め、延長サービス、外出、送迎、通院等必要に応じ本人・家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域ケア会議、運営推進会議等で協力をお願いし普段から連携を取っている。また幼稚園や保育園、学校行事への参加等を行い、地域に関わり安心して暮らしていけるよう支援している。社協のボランティア制度も利用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の希望するかかりつけ医に月1回往診してもらっている。体調不良時は随時往診してもらったり職員が同行し診察を受け、病状を把握、家族と共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。町外の医療機関への受診も基本的には職員が同行するが、状況によってはご家族の同行をお願いしている。</p> <p>(外部評価) 利用者のご家族が希望されるかかりつけ医に、定期的に往診していただいたり、通院に職員が同行しておられ、受診の結果は、その都度ご家族に報告されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 普段は介護職員で1人1人の体調管理や病状把握に努めており、変化時は24時間体制でかかりつけ医や法人内の看護職の指導が受けられる。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時にはできるだけ短期間で退院できるよう主治医と話をする機会を多くもち、家族とも情報交換しながら、早期退院に向けて職員が頻繁に見舞うようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居後早期の段階で重度化に対するホームの考え方、対応方針、医療との連携等十分に説明し意志確認書を作成している。又、確認書にとらわれず、状況の変化に応じて話し合いを繰り返し、重度化や終末期に向けた支援をしている。当ホームでは開設当初より、本人・家族の希望に添うよう終末期ケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 入居時に、ご本人が重度化した場合の話し合いを行いご家族に「確認書」を取るようになっている。その後は、状態変化時には随時お聞きして、臨機応変に対応をされている。最期の2日間ご自宅に戻られ、ご家族が看とられたというような事例や、ギリギリまでホームで過ごされて、最期は入院された方もある。ご家族がホームに泊まりご本人のお世話をされたような方もあり、それぞれに合わせてサポートされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、カンファレンス等で周知徹底を図っている。消防署の協力を得て、毎年1回法人全体で救命救急法の勉強会を実施し、実際の場面で生かせるように取り組んでいるが、いざとなると慌ててしまう不安もあるので繰り返し訓練するように努めていく。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導の下、避難訓練、消火器の使い方等の訓練を年1回、職員間で1回行っている。消防署と自治会にはホームの見取り図と利用者の氏名、身体状況(歩行困難等)を情報提供している。今年、自動火災通報装置と非常ベルを設置した。又2名の職員がホ-ムの近隣に住んでおり、すぐに駆けつけられる状況にある。 (外部評価) 年2回の避難訓練を行い、火災通報装置と非常ベルを設置されている。事業所の見取り図と利用者情報を消防署と自治会に知らせてあり、災害時には事業所の中まで入って協力していただくようお願いされている。	夜間時の職員が少なくなるような時間帯を想定した訓練を行う等、いろいろな場面を想定した訓練を重ね、さらに利用者、職員の安全と安心につなげていかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンス時等に職員の意識向上を図ると共に、その時々に関わり方を代表者や管理者が利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応(特に人前でのトイレ誘導の声かけや入浴時の羞恥心に対する配慮、居室への入り方等)や自己決定の出来る言葉掛けの指導等を折々に行っている。日常の会話は、堅苦しくなく、家庭にいるような楽しい雰囲気になるようにしている。 (外部評価) 法人代表者は、職員の声かけがプライバシーを損ねていると感じた時には、その場で注意を促すようにされている。調査訪問時、職員は、利用者ご本人の動きを見ながら、そっと傍に寄って、ご本人だけに聞こえるよう話しかけておられた。以前は、ホーム便りを地域にも配布されていたが、ご家族の希望もあり、現在は中止されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人一人の持てる力に合わせて衣類の選択、買い物時の選択、おやつ時の飲み物の選択、座る場所の選択等危険のない限りできるだけ自己決定してもらおうよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、一人一人のペースを尊重し、「早く」「待って」という言葉をできるだけ使わないよう心がけて利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員は見守りや支援が必要ときに手伝うようにしており、着替え等本人の意志で決めてもらっている。自己決定がしにくい利用者にはできる限り本人の意向を聞きながら支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 家庭菜園で育てた野菜を利用者と一緒に採りに行ったり、調理の下準備や片付け等共にしている。そして同じテーブルにつき同じ物を食べ、楽しい雰囲気できている。	
			(外部評価) 献立は、前日のメニューや手元にある食材、利用者の希望を聞いて、当日の勤務職員が決められておられる。食材の下拵え等、食事一連は、得意な利用者の方と一緒にやっておられる。調査訪問時、豆を剥いたり、すり鉢で白和えの豆腐をすっておられる利用者もあった。朝は、起床時間に応じて朝食の時間を合わせておられる。水分を摂りたがらないような方がおられたが、ペットボトルの水だと、ご自分から飲まれることに気付き、水分を十分に摂ってもらえるようになったようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養が偏らないように高齢者食の本を参考にした調理を心がけており、食事の摂取状況を毎日チェック表に記録している。10時、3時のおやつ時及び入浴後等水分補給に気をつけている。また、普通食の摂取ができない方には個別に軟かく煮たり、トロミをつけたり又、原型を見てもらい食欲が増してから直前につぶす等その人にあった工夫をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きの声かけを行い、チェック表の記入をしている。歯のない利用者さんに対しては、うがいをしてもらったり、自分でできない方は、ガゼ等を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人一人の排泄パターンやサインを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう声かけやトイレ誘導を行っている。また下着やパットを使い分けることにより本人の不快感の軽減や、自己負担である排泄用品の出費の軽減に努めている。	
			(外部評価) 他施設から入居された方がおむつをされていた場合、ご本人の状態を十分に観察して、職員みんなで話し合い、ご本人に合った支援を検討されている。少しでもおむつやパッドを減らして、できるだけ快適に過ごしていただくよう支援されている。職員のトイレへの誘導を嫌う利用者には、トイレとは告げず、まずは移動してもらえよう声かけしてからだと、トイレに足を向けてくれることが多いようだ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食材での調理や散歩、水分補給等いろいろ工夫し、自然排便に向けて取り組んでいるが、頑固な便秘の時は下剤の使用も余儀なくされている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴回数、時間等個々人の希望に合わせて、職員が見守りや介助をして、ゆっくり入ってもらっている。また夏場は勤務時間を変更、いつでもシャワーで汗を流せるよう体制を整えて、声かけしている。	
			(外部評価) 希望があれば毎日でも入浴できるよう準備をされている。介護度重度の方は、職員が2~3人で介助して浴槽で温まってもらえるよう支援されている。浴室で眠くなるような利用者には、お一人で入ることを希望されている場合でも、隙間等からさりげなく見守りをされて、安全に安心して入浴できるように支援されている。入浴を嫌がる方は、浴室まで行くと入浴に結びつく等、傾向を知り、声のかけ方等も工夫して支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 散歩や買い物など日常の活動を通して生活リズムを作り、安眠できるよう支援している。寝付けない時には一緒にお茶を飲んだりおしゃべりやTVを見たりゆっくりした時間の中で眠りに入れるように支援している。日中も、思い思いに自由に自室で休息されている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の処方箋をシートにし、使用している薬を把握して正しく服用できているか確認している。1度誤配があったので、食後一人づつ名前を呼んで手渡すようにしている。症状の変化時等は協力医療機関に連絡して指示を受けている。副作用については全員が理解しているとは云えない。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 台所仕事、洗濯、布団干し、草花や野菜の世話、雪かきなどを利用者一人一人が無理なく楽しんで行えるよう支援している。また、カラオケやバーベキュー、季節季節の習わし事を、利用者と一緒にしている。観劇や好きな歌手のコンサートにも職員が同行し楽しみや気晴らしの支援を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買い物には必ず利用者で行くようにしており、回覧板を回したり、近所を散歩したり、地域の行事などにも積極的に参加している。観劇や墓参り、法事への出席等本人の行きたいところへ出かけられるよう家族とも協力しながら支援をしている。	
			(外部評価) 毎日、食材の買い物には、利用者を出かけておられる。利用者は、新聞をみて「花がきれいに咲いている」「歌手がくる」という記事に「行きたい」と希望されるようである。松山の飛行場やお城に出かけたり、大洲から双海町をドライブされたり、好きな歌手のコンサートへも出かけられた。介護度重度の方は、なかなか遠出ができないため、車いすで庭に出ることを支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者1人1人の能力に応じて支援している。できる人にはお小遣いを自分で管理してもらい、買い物も職員と一緒に自由に行っている。能力に応じて美容院の支払い等も本人にまかせている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や電話のやりとり等、希望に応じて支援している。電話は子機を使用してもらい離れたところでも話ができるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間は和室で掘り炬燵があり、一般家庭と変わらない設えになっているので、利用者も来訪者も居心地よくリラックスできていると思う。振り子の柱時計や、職員手作りの物が飾られており暖かく親しみやすい家庭的な雰囲気があると思う。</p> <p>(外部評価)</p> <p>民家改修型のグループホームで、高台に位置しており、見晴らしがよく、庭には、いろいろな野菜や花が植えられ、近くの山から、ふくろうの鳴き声等も聞こえる。事業所内は、段差のあるところに、手すりが付いており、2階の居室にも利用者がご自分で上がり降りされている。庭に面した居室は、窓から出るとぐると濡れ縁になっており、利用者は日向ぼっこを楽しまれている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれが思い思いの場所で過ごせるように、ソファや椅子、コタツがあり、また裏庭に面した濡れ縁でひなたぼっこや、おしゃべりを楽しむことができる。あちこちに椅子が置いてあり思い思いに過ごせるスペースがある。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>タンスやコタツ、テレビ等本人の使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。御家族の写真や誕生日の色紙、花等好みの物が飾られており安心して過ごせる場所になっている。仏壇や信仰の対象物を持ってこられ、落ち着いた生活をされている方もある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室は、部屋ごとに広さ等にも違いがあり、壁には、毎年事業所から贈られる写真入りの誕生日を祝う色紙が並べて飾ってあった。ご自宅で使っていた家具やテレビを持ち込まれていたり、壁にはコンサートに出かけた際の団扇やお孫さんの習字の作品が掛けてあったり、好きな本を置いている方もあり、個性もみられ、利用者個々の雰囲気も感じられるしつらえになっていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>要所に手すりを設置し、出来る人には洗濯物を自分で干せるよう物干しの高さを調節し、安全で使いやすく自立した生活が送れるよう配慮している。各居室にはわかりやすい表札があり、入り口には好みののれんが掛けてある。家庭的な雰囲気を壊さないよう、場所違い、混乱等を防ぐ工夫をしている。</p>	